(2) 郷土資料の収集

県内出版物は、国　県　市町村から刊行されるいわゆる地方行政資料、自費出版の形で民間から出される短歌、俳句、詩等、地元の出版社から出されるものなど多彩である。

本年度中に収集したものは 1,640冊に及ぶが、この中には猪苗代、河東、棚倉、霊山、田島、飯舘等の町村史、また「保健婦40年史」「福島県警察風土記」等の労作を含んでいる。

2　図書館資料の整備

(1) 蔵書の検討

蔵書構成については、館内に収書委員会をもうけ、慎重に資料の収集に当たっているが、より適切な蔵書構成を図るために、専門家による蔵書診断を年次計画で進めている。本年度は社会科学部門について実施したが、委員は次のとおりである。

小　島　　定	福島大学助教授	政治学
下平尾　　勲	福島大学教授	経済学
小　林　真　一	福島大学助教授	経営学
市　川　佳　宏	福島大学助教授	社会学
庄　司　他人男	福島大学助教授	教育学
木　口　勝　弘	県立福島西女子高等学校教諭	民俗学

政治学を担当された小島氏は、地域の事を軸にしつつ、広く国際関係まで視野を広げた図書の収集を目指すべきだと提言している。

(2) 蔵書目録の刊行

所蔵資料の全県的な活用を図るため、毎年編さんされているものであるが、本年度は53年度に受入れた 3,426冊について増加図書目録として刊行、市町村教育委員会、公民館、市町立図書館等に配布した。

第3節　館　内　奉　仕

1　利　用　状　況

利用の中心をなす館外個人貸出について見ると、登録者数で 3 7%、貸出冊数が 3 3%と、それぞれわずかながら減少した。これは登録者の職業別を見ると分るが、大学、高校、中学生及び各種学校生が、いずれも前年度を若干下回ったためである。福島大学の松川移転、高校生の活字離れなどが要因として考えられる。しかし逆に主婦や無職は増加の傾向にある。〔表2〕

表2　館外個人貸出登録者数　（昭和54　4～55　3）

区　分		男	女	計	構成比
学生	大　学	491	543	1,034	2,174 58 6
	高　校	188	411	599	
	中　学	190	228	418	
	各　種	36	87	123	
勤　め　人		562 (12)	253 (1)	815 (13)	22 0
自家営業		102	18	120	3 2
主　婦			425 (20)	425 (20)	11 4
無　職		107	72	179	4 8
計		1,676	2,037	3,713 (46)	総数に対して34 3
児　童				1,939 (31)	
合　計				5,652	

（　）内は家族券による登録者数

利用された図書を分類別に見ると、政治　経済　社会問題教育などの分野を含む社会科学部門、絵画・工芸　趣味・スポーツなどの芸術部門の増加が目立ち、時局問題への関心と、余暇善用としての趣味　娯楽への傾斜が見てとれる。〔表3〕

表3　館外個人貸出利用図書冊数　（昭和54　4～55 3）

分　類　別	冊　数	構　成　比
0　総　記	712	0 9%
1　哲学宗教	1,450	2 0
2　歴史地理	2,899	3 9
3　社会科学	5,212	7 0
4　自然科学	1,884	2 5
5　工学・工業	1,692	2 3
6　産　業	751	1 0
7　芸　術	3,120	4 2
8　語　学	484	0 6
9　文　学	19,461	26 0
児　童	37,068	49 6
計	74,733	100

開館日数 273日
一日平均貸出冊数 274冊

2　調査相談業務

調査相談業務の中心は 調査依頼に対する回答事務であるが、全体の件数では前年度を 9 1%ほど下回った。

調査依頼の内容は、従来、個人・団体　物事の内容、書誌に関することなど、質問の類型によって分析していたが、本年度は初めて職業別による利用者層の分析を試みた。その結果によると、やはり、官公庁及び民間企業と、それらに所属する者が55 2%でも　とも多いことが分た　学生が17 2%でこれに次ぎ、主婦 9 3%、自営業 7 6%と続く。